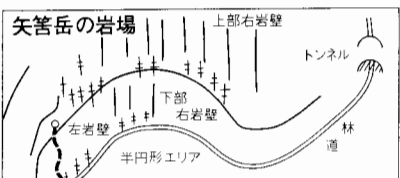
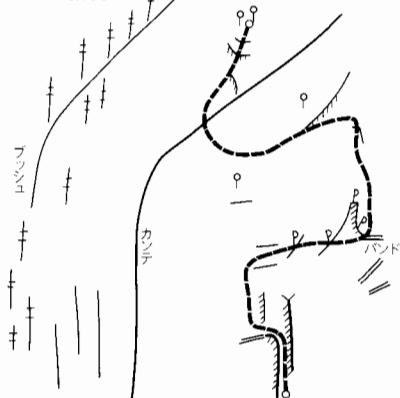
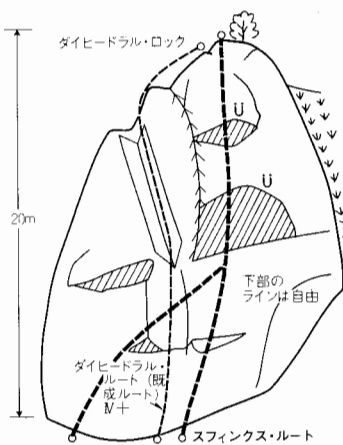


矢筈岳下部左岩壁・振飛車フェース  
20m 5.10d

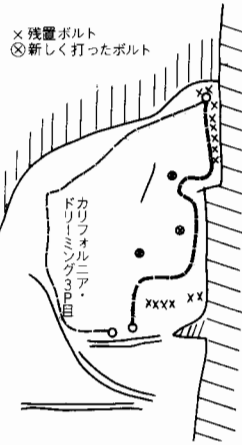


矢筈岳の岩場  
このほか東壁では、アメリカン・エイドの試み、クラック・システムの発見など、この壁の今後の可能性を示唆するものとして興味深い記録が併せて報告されている(本文記事三三三参照)。

穂高岳周辺 クラブ・ポリニエの小林一弘(21)による一九八五年夏のおもな記録。8月12日、14日、矢島隆明(26)をパートナーに東壁大スラブ「マニア



スカイセーリング  
御在所岳藤内壁中尾根バットレス  
金毘羅山スフィンクス・ルート 5・8



あえてひとつのルートとして命名した。グレードは一三、四、五、一二としたが、これはムーヴのわりにくさを考慮している。ムーヴがわかってしまえば5・11十だろう。ギアはフレンジ4番、クイックドロウ・スリング、他にアンカーの補強にフレンジのラージ・

雪稜ルートは一九五九年、東壁最初のルートとして開拓されたものである。「初登ルート」というのはその壁の弱点をうまくついで拓かれていく場合が多い、とよくいわれる。こう考えると、東壁の中で雪稜ルートがオール・フリーの対象となつたのはごく自然なことかもしれない。

一部分を残してフリー化されていた屏風岩東壁雪稜ルートだが、この夏ついに解決された。これにより、人工登攀の舞台として名を馳せた東壁に、初めて上まで抜けるフリーのラインが登場した。

サイズ。  
(山本和幸 チーム・イカロス)  
**北アルプス**

穂高

一部分を残してフリー化されていた屏風岩東壁雪稜ルートだが、この夏ついに解決された。これにより、人工登攀の舞台として名を馳せた東壁に、初めて上まで抜けるフリーのラインが登場した。

このほか東壁では、アメリカン・エイドの試み、クラック・システムの発見など、この壁の今後の可能性を示唆するものとして興味深い記録が併せて報告されている(本文記事三三三参照)。

穂高岳周辺 クラブ・ポリニエの小林一弘(21)による一九八五年夏のおもな記録。8月12日、14日、矢島隆明(26)をパートナーに東壁大スラブ「マニア

東海・近畿

御在所岳

「開拓(本文参照)。16日、屏風岩一ルンゼ(単独)。19日、20日、保正博(26)クラブ・ポリニエと屏風岩右岩壁実践ルート。22日、24日、屏風岩東壁ミッドナイト・エクスプレス(パートナーは矢島)開拓(本文参照)。25日は単独で屏風岩一ルンゼ(前穂東壁右岩壁古川)北壁Aフェース(前穂高岳)北穂高岳。26日、単独で滝谷第四尾根ドーム北壁右ルート(横尾)。

このほか東壁では、アメリカン・エイドの試み、クラック・システムの発見など、この壁の今後の可能性を示唆するものとして興味深い記録が併せて報告されている(本文記事三三三参照)。

穂高岳周辺 クラブ・ポリニエの小林一弘(21)による一九八五年夏のおもな記録。8月12日、14日、矢島隆明(26)をパートナーに東壁大スラブ「マニア

九州

矢筈岳

このほか東壁では、アメリカン・エイドの試み、クラック・システムの発見など、この壁の今後の可能性を示唆するものとして興味深い記録が併せて報告されている(本文記事三三三参照)。

穂高岳周辺 クラブ・ポリニエの小林一弘(21)による一九八五年夏のおもな記録。8月12日、14日、矢島隆明(26)をパートナーに東壁大スラブ「マニア